

古文書解読自習プログラム 初級レベル5

アメリカ公使ライス探索の触書

アメリカ官吏ライスほか乗組の鯨漁船が行方不明となり、もし船を見掛けたら箱館へ戻るよう諭すことを記した箱館周辺の村々への触書。「箱館御役所」は高い位置に書かれているが、差出者。『御用留』は安政5年(1858)から明治4年(1871)までの箱館奉行所及び開拓使出張所の触書や達書などを綴ったもの。

解読文

箱館 触書
箱館在留亜米利加官吏ライス并
同国人九人、本邦水主之もの三人、
端船式艘江乗組、鯨漁として去ル十五日
当港出帆之俛、今以不相戻候。自然
其村々海岸江船寄候儀も有之候ハ、
早々当地江立戻候様可申諭候。此触
書早々順達、留り村より可相返もの也

箱館 御役所
未ノ五月十八日

語句

ライス… Elisha E.Rice 米国貿易事務官。元治元年(1864)より在箱館領事。

自然(しぜん)…もし、ひょっとして

留り…終わり(触書を順番に各村へ廻し、最後の村から役所へ返すという意味)

未ノ五月十八日…安政6年5月18日